

津波土砂避難訓練を実施

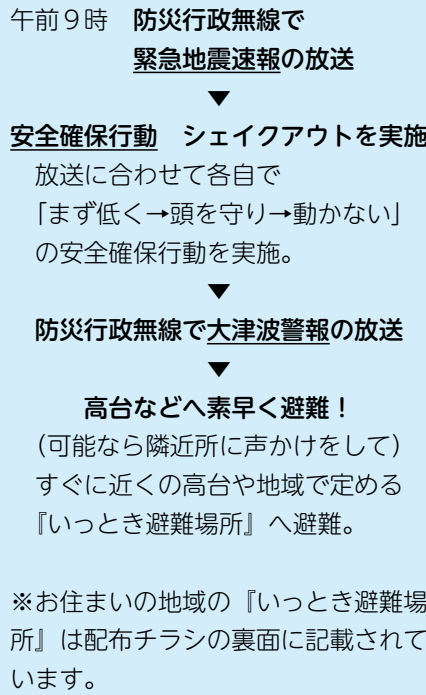
11月9日(土) 9時

津波や土砂災害の発生を想定し、自分の身を守ることに重点を置き、自宅等から安全な場所まで避難する訓練を行います。

避難時は「火の始末」や「戸締り」にも注意。訓練終了後は「避難経路の危険箇所」「避難時間」「家族との連絡方法」などについて家族や地域で話し合います。

※詳しくは広報おおいそ11月号と同時配布予定のチラシをご覧ください。 ☎内線244

一般的な訓練の流れ



避難訓練が終わったら、大磯港に行こう!!

同日開催!! 津波対策訓練を実施

津波土砂避難訓練終了後、午前10時より大磯港を会場として、県と合同で津波対策訓練を実施します。

自衛隊、警察、消防、近隣自治体などの公的機関のほか、防災関係団体による救出救助、物資輸送訓練等が行われます。複数の大型艦船やヘリコプターのほか、災害用ドローンが動き回る様子は圧巻です。

起震車や啓発ブースもありますので、避難訓練後、ぜひご来場ください。



2020年

農林業センサスにご協力ください

令和2年2月1日現在で、全国一斉に、農林業の国勢調査、といわれる「2020年農林業センサス」が実施されます。

この調査は、今後の農林業の政策に役立てるために5年ごとに実施される極めて大切な調査です。

令和元年12月中旬から、農林業を営んでいる皆さんのところに調査員が訪問して、調査票に農林業の経営状況などの記入をお願いいたしますので、ご協力をお願いします。



登録統計調査員を募集しています

調査員は調査実施ごとに任命される非常勤公務員です。各調査の任命期間は、2か月程度です。統計法に基づく統計調査において、調査対象の世帯や事務所に調査票の配布、回収、点検などを行います。

▼報酬 統計調査の種類や調査活動にかかる日数などを考慮して定められます。

☎内線207

イノシシ・シカを増やさない・寄せ付けない地域づくり

イノシシの捕獲編

①間違った捕獲が被害を増やす
町では、町内に箱ワナを仕掛け、年間150〜200頭前後のイノシシを捕獲しています。また、猟期(11月15日〜2月末)に猟師さんが狩猟する頭数を含めるとさらに多くのイノシシが捕獲されています。

捕獲は被害対策の一つの方法ではありますが、捕獲頭数の増加が必ずしも被害を減らすことにつながらないことや、やり方によっては逆に被害を増やす原因になってしまうことがあるので注意が必要です。

②子どものイノシシばかりの捕獲は被害対策にならない
箱ワナの場合、ワナの中に入れた餌でイノシシをおびき寄せて捕獲します。しかし、すぐ近くにイノシシがいるのになかなか捕獲できないことがあります。その原因は主に二つです。

一つ目はワナの周りに餌がある場合です。イノシシは警戒心が強いので、周りに自由に食べられる野菜や果実があれば、わざわざ怪しいワナの中に入ることはありません。

二つ目は、イノシシがワナを覚えてしまった場合です。例えば、自分の子どもがワナで捕獲

される様子を親が近くで見ているケースがよくあります。子どもは好奇心が強く警戒心がまだ低いのでワナの中に入りやすいからです。しかし、こうしてワナの危険性を学習してしまった親はいっそう警戒心を強め、ますますワナで捕獲することが難しくなります。

③捕獲の前に餌付けをなくす
対策は順番が重要で、捕獲からはじめても被害は減りません。まずは、イノシシが自由に「餌」を食べられる状況を減らしていかないと捕獲は進みません。田畑はしっかり柵で囲い、イノシシに食べさせない状況にすることが大切です。また、クリやカキなどの放棄果樹をなくすることも重要です。



☎内線262